

薬用ハンドソープが原因で院内感染が拡大した病院

■手洗いがいいかげんになっている？

11月から3月までは、病院や福祉施設にとってノロ・インフルエンザなど感染症対策の重点取組期間です。A病院の感染症対策委員会では、手洗いの方法など薬用ハンドソープ使用方法の見直すことにしました。具体的には「手洗い方法の基本確認」「ノズルタッチの禁止」「詰め替え時の洗浄」の3点を徹底することになったのです。この対策の背景には、①薬用ハンドソープの殺菌力を過信して手洗い方法がいい加減になっていること、②ボトルのノズルからウイルスが侵入していること、③液剤を注ぎ足し補充しボトルを洗浄していないことが挙げられます。手洗いがいい加減になり、ボトル内にウイルスが侵入し他の職員にウイルスが伝播する危険が大きいのです。A病院の感染症対策委員会の委員長は、衛生行動の重要性を訴えました。福祉施設でも衛生行動の見直しに取り組んではいかがでしょうか？

殺菌力をデータで示して徹底！

■手洗い方法の基本を再徹底

病院職員の手洗い方法がいい加減になっていました。A病院で職員の手洗い方法の実態を調査したところ、「手を水で濡らさずにハンドソープを付けて3秒程度水で流す」という職員もいるのです。ハンドソープはアルコール製剤のような殺菌効果はありませんから、手洗いの基本に立ち返らなければなりません。また、液剤を手につける時にノズルに手が触れてボトル内にウイルスが侵入すると、ボトルから他の職員にウイルスが伝播する可能性があります。ポンプ式のボトルノズルには触れないよう徹底し、詰め替え時は注ぎ足し補充は禁止しボトル洗浄も徹底しました。

■薬用ハンドソープのウイルスに対する殺菌効果について

病院では薬用ハンドソープの殺菌力も確認してもらいました。その効果を過信して手洗いがいい加減にならないように注意を促しました。

《主な薬用ハンドソープや消毒剤の殺菌成分》

製品(例)	殺菌(抗菌)成分
A社薬用泡ハンドソープ	イソプロピルメチルフェノール
B社薬用泡が出る消毒液	ベンザルコニウム塩化物
C社薬用泡ハンドソープ	イソプロピルメチルフェノール
D社薬用ハンドウォッシュ	ベンザルコニウム塩化物
E社ハンドクリーン手指消毒液	エタノール
水石鹸	イソプロピルメチルフェノール
泡ハンドウォッシュ	ポピドンヨード

《細菌やウイルスに対する殺菌力》

殺菌成分	細菌				真菌		ウイルス			
	一般細菌	MRS A	耐性菌	結核菌	真菌	芽胞	一般ウイルス	HIV	HBV	ノロ
イソプロピルメチルフェノール	△	×	×	×	△	×	×	×	×	×
塩化ベンザルコニウム	○	△	×	×	△	×	×	×	×	×
エタノール	○	○	○	○	○	×	○	○	×	×
ポピドンヨード(ヨードチンキ)	○	○	○	○	○	△	○	○	×	×
次亜塩素酸ナトリウム	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
 マーケット開発 市場開発室
 担当 堀江・窪田
 TEL 03-5789-6456

担当課・支社 代理店